

## 第6期 新宿区多文化共生まちづくり会議 第5回全体会 議事概要

日 時 令和5年7月26日（水）10:00～12:00

場 所 しんじゅく多文化共生プラザ

出席委員 小林委員、金委員、伊藤委員、郭委員、申委員、長谷部委員、毛受委員、ゼヤー委員、楊委員、松田委員、安藤委員、李委員、江副委員、タイン委員、コチュ委員、鈴木委員、立川委員、陳委員、ドゥラ委員、原田委員、朴委員、井上委員、宗像委員、佐々木委員、塚本委員、守重委員、山口委員 27名

欠席委員 チャン委員、奥田委員、ブサン委員、叔委員、センブ委員 5名

### 1 開会

### 2 事務局からの説明

#### (1) 区における多文化共生の方針

①自治基本条例

②総合計画

#### (2) 多文化共生意識の変化

①多文化共生実態調査の経年変化

②区政モニター調査の経年変化

### 3 「地域における多文化共生意識の醸成」とは

事務局からの説明をもとに、委員から意見をいただいた。

- ・外国人と日本人では、「地域の日本人（外国人）との交流やイベントに参加する」という点で、日本人の方が低くなっておりギャップを感じる。
- ・偏見・差別をなくすためには、何が重要だと思いますかという問で、一番高いのは「お互いの生活習慣の違いを認める」ということになっているが、お互いの生活習慣の違いが何なのか具体的に分からない部分があるという気がする。もう少し丁寧に、文化や社会の違いについても、一般の日本人の方々が学ぶ機会があれば、より包容力を持って外国人の違いを受け止められると思う。
- ・調査を行った時代の背景や新宿区の発展、外国人にとって非常に便利になって変わってきていることについて分析の中に入れてはどうか。
- ・多文化共生という新宿区の理念というのはすごく共有されているし、浸透もしている一方で、ふだんの交流というのはほとんどないというのが見えてくる結果だと思う。

ふだん偏見や差別をどのような場面で感じているのか分かったと、今回考えていく多文化共生意識の醸成のためにと何をしていけばいいのか見えてくる気がする。

- 声をかけていないからトラブルになっていない、気がついていないというのはある気がした。

外国人調査で「外国人と日本人による協働を増やす」との回答があることから、単発のイベントとかよりも、もっと一緒にできる機会が欲しいと思っていることの表れという気がする。

- 区内に働きにくる方、住まわれる方の種類というか目的が時代によっても大きく変わってくる。今後この多文化共生というところで考えると、その時代背景というか、社会情勢の変化も考えつつ、発信していく方法も含めて考えていく必要があると感じる。
- 外国人コミュニティに強い発信力のある方が絶対いると思うので、そういう方たちと組んで、その人たちに発信してもらおうとよい。

イベントでも日本の方がほとんどで外国の人が少ないと、肩身が狭く感じる。日本の生活が長くない方じゃなければ、参加するのに勇気がかなり要る。

- 次のステップは、町の中で外国人と日本人が確実に出会い、少しずつ知り合って、少しずつ自然なネットワークづくりができるようなステップにそろそろ入らなければならないと思う。

お互いが文化を超えた知り合いというか、この地域の住民であることをふだんから認識していかなければ、そのうち大きなトラブルになりやすいということを危惧している。

コミュニティの中の例えばリーダーたちや外国の方も含めてのネットワークづくりにそろそろ移らなければならないと思っており、多文化共生連絡会が活用できると思う。

表面上の知り合いだけでなく、生活上の相談、文化を知ったうえ、ソーシャルワークをしたうえの相談のできる人たちも増えていかなければならないと思う。

- トラブルがないという調査結果は、日本人との付き合いがないから。
- 行政はどうしても対応できないところがあるので、言語教室やイベントをやりたい外国人の起業家などを支援して場を作るとよいと思う。
- 特定技能の宿泊や飲食業は、恐らく新宿区内にもどんどん増えると思う。昔はいなかった在留資格の人が増えると思うので、教育、日本語のカリキュラムも、その立場の学歴や経歴に合わせないといけないと思う。
- 町内会とかに出ると、うるさいとかごみの出し方とかトラブルがあるが、実態調査では、トラブルは特にないという結果が出ており、ずれがすごく生じているので、すごい疑問がある。
- 日本に来たばかりの外国人は、家が借りられないのと、クレジットカードが発行できなくて困っている。民間で生じている問題に対して、新宿区が強制的に何かすることは難しいと思うが、何ができるかももう少し深く議論をしないとけない。

- ・アンケートの「多文化共生のまちづくりを進めるために、今後の区の対応として、どのようなことを進めるべきか」の結果をうけて、区は具体的に実際何をやってきたのか知りたい。
- ・「あいさつなどの声かけを行う」から「気軽におしゃべりする」までは、時間がかかると思う。  
地域として何ができるかを考えたとき、清掃とか防災訓練だけで終わらないで、その後に茶話会とか参加された方とお話しする機会を設けるのが大事だと思っている。  
地域として何ができるかというのは、地域全体で考えていかなければいけないと思う。あまりハードルが高くならないように、気軽におしゃべりするという機会がもっと増えていかないと、お互いに知ることはできないと思う。
- ・令和2～4年度にコロナの影響で町の中から外国人の方が少なくなったにもかかわらず、区政モニターアンケートでは多文化共生の意識が高いというのに正直、驚いた。  
あまり先入観やバイアスを持ちたくないが、コロナで外国人が減って、アパートのゴミ箱が改善したという例もあり、難しい状況もある。
- ・諸外国で既に多くの外国人労働者を受け入れている国があると思う。そこで実際にどんな問題が起きていて、どんなふうに対処していて、何が効果的で何が失敗だったのか、前例が幾つかあると思うので、それを例えば新宿区のほうで洗い出して、想定できるリスクに対応していくのも、ひとつ次のステップとしてはいいのかなというふうに感じている。
- ・みんなで盆踊りを踊ろうということで、盆踊りの団体をお願いしたら、外国の人たちが踊っているのを見て、喜んでくれた。新宿に地域センターが10か所あるが、地域センターで教えているグループに声をかけると、喜んで教えてくれると思う。
- ・「同じ地域で外国人と生活していく上で大切なことは何だと思えますか」という問で「生活習慣の相互理解」が一番多いが、結局日本で暮らしていこうと考えたら、外国人の方に日本での暮らし方を理解してもらうしかない、ルールに従っていただくしかないと思う。
- ・大きな施策でやるところと、地域や町会で小さなところから少しずつ始めるところと、いろいろな形でやっていかなければ駄目だと思う。やはり、日本人とか外国人とかということではなく、相手のことを尊敬する、大事に思うということが本当に全ての基本じゃないかなと思う。

#### 4 その他

防災館ツアーについてのお知らせ

#### 5 閉会